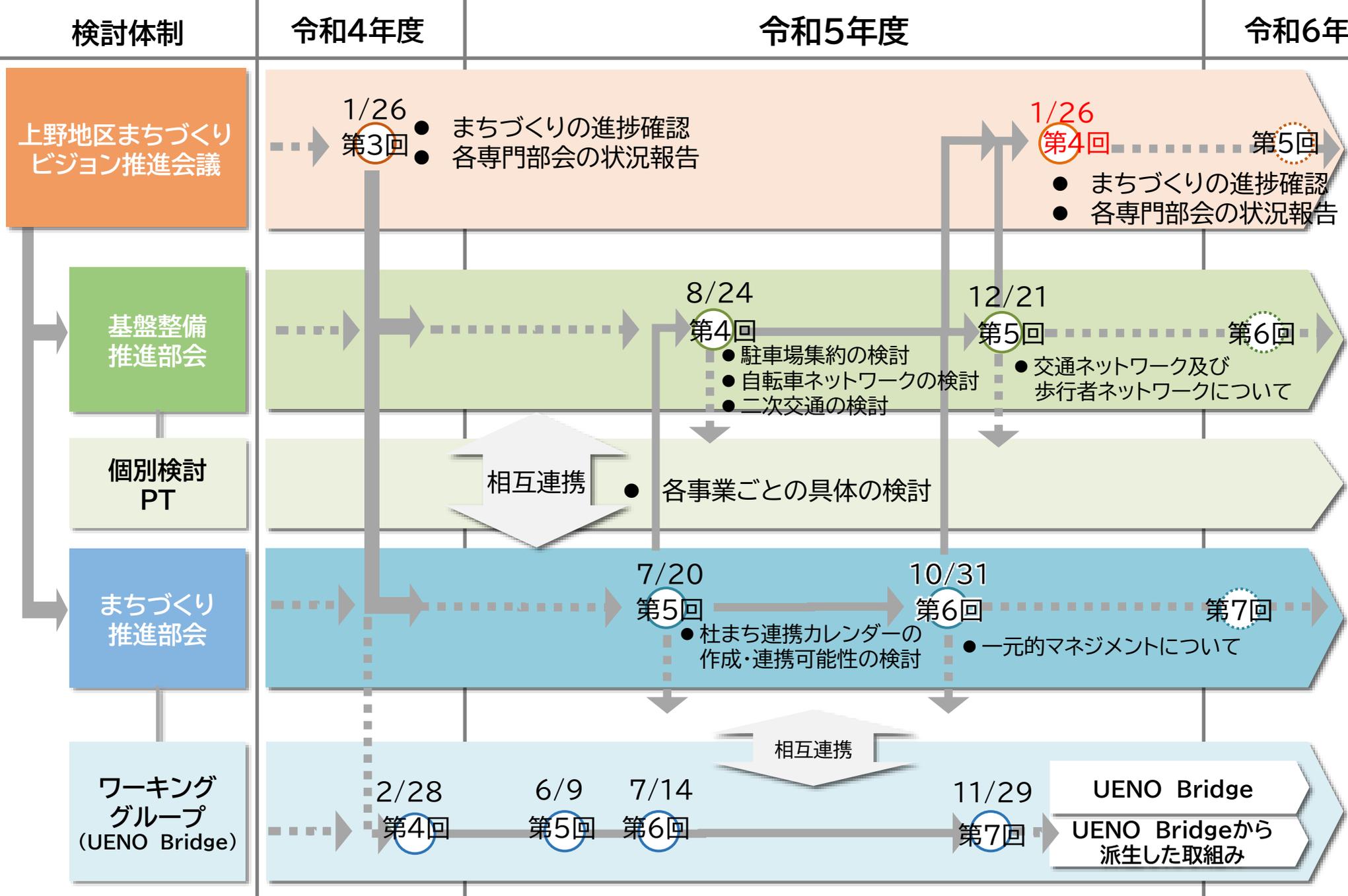


# 上野地区まちづくりビジョン推進会議の振り返りについて

## ■ 前回推進会議からの検討経緯(結果)



事業化

## 上野地区まちづくりビジョン推進会議 (プロジェクトマネジメント)

多様な主体の協働によるまちづくりの推進

上野地区にかかわる様々な人々や組織が、それぞれの役割を認識し、協働によるまちづくりに取り組む

### 【会議の役割と目的】

- 上野地区まちづくりビジョンに基づくまちづくりの進捗管理
- 上野地区全体のまちづくり推進のための協議・調整
- 状況の変化に応じた柔軟かつ機動的なビジョンの検証・更新



まちづくりの多様な主体(プレイヤー)のイメージ

### 専門部会の設置

#### まちづくり推進部会 (使い方検討)

##### 【部会の役割と目的】

- 杜・まち連携の取組み推進
- エリアマネジメントの推進

検討テーマや具体的なアイデアなどの提案や共有、活動の支援

#### ワーキンググループ

アイデア抽出と人材発掘のためのワークショップ等を開催する体制

相互連携

- 上野地区まちづくりビジョン推進会議で、両部会の検討状況を共有・意見交換
- 基盤整備推進部会では、まちづくり推進部会での議論を踏まえながら基盤整備の検討を実施
- 検討内容に応じて、適宜まちづくり推進部会の部会員を加えた基盤整備個別検討PTを設置

#### 基盤整備推進部会 (作り方検討)

##### 【部会の役割と目的】

- 駅周辺基盤整備方針の整理
- 基盤整備事業の深度化検討

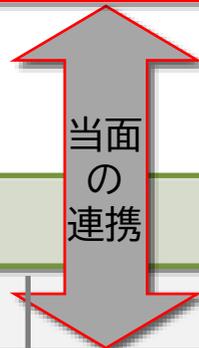
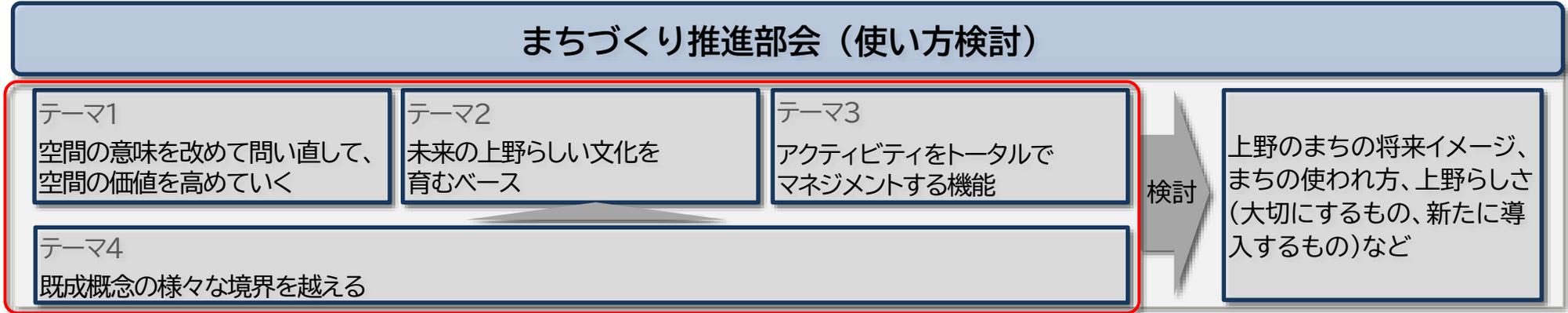
情報共有

#### 個別検討PT

各事業の具体化に向けた検討を実施する体制 ※当面は短期的なウォークブルまちづくり推進の実現に向けた検討を実施

## 上野地区まちづくりの短期的な検討テーマについて

■ まちづくり推進部会及び基盤整備推進部会の両専門部会は、相互に連携しながら検討を進める



- 上野地区まちづくりビジョン推進会議で、両部会の検討状況を共有・意見交換
- 基盤整備推進部会では、まちづくり推進部会での議論を踏まえながら基盤整備の検討を実施
- 検討内容に応じて、適宜まちづくり推進部会の部会員を加えた基盤整備個別検討PTを設置

**基盤整備推進部会（作り方検討）**

ビジョンにおける取組み	短期(2020年代)	中期(2030年代)	長期(2040年代)
歩行者優先のわかりやすい都市空間の創出	テーマ1 上野地区ウォカブルまちづくり推進の短期施策の推進	上野地区ウォカブルまちづくり推進の中長期施策の推進	
世界中の人々を迎え入れるおもてなし機能の強化	テーマ4 歩行者回遊性向上に資する都市機能の検討	上野地区全体における都市機能の誘導・整備	
国際都市の顔に相応しい駅前空間の創出	テーマ2 駅前歩行者空間の創出検討	風格ある歩行者広場空間の創出	
	テーマ3 交通機能の集約等検討	上野地区全体における交通結節点整備	

## 2022年度 まち部会 (第3回)

- 戦略立案の軸となる上野の強みについて議論し、「駅半径1kmに世界に比肩する多様なポテンシャルが凝縮したモザイク都市」が上野のユニークネスであることを確認
- 杜まち連携の中心となる注力すべきパブリックスペース等12か所「ターゲット10+」を抽出

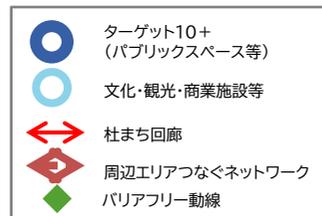
### ■戦略立案の軸となる上野の特徴・強み



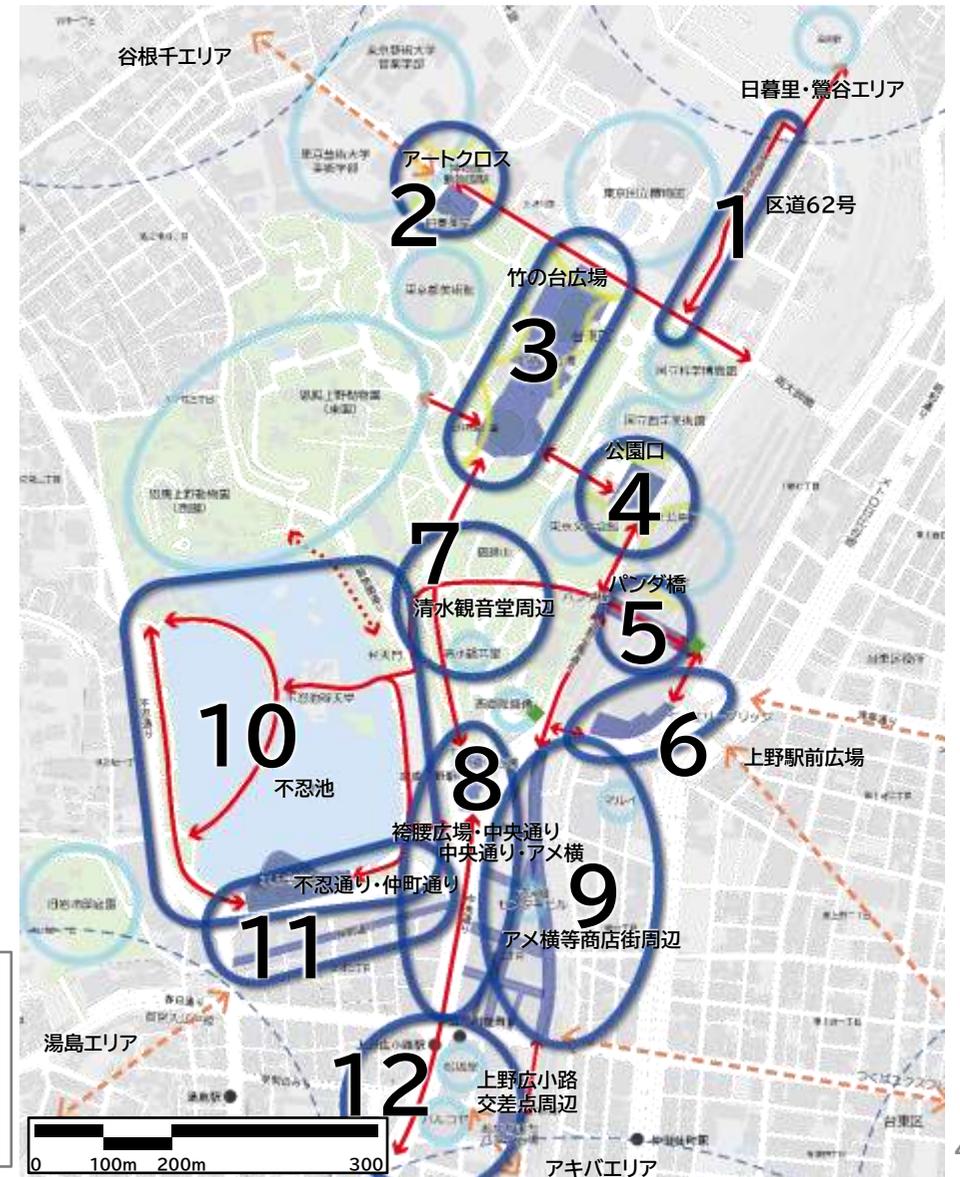
### 戦略(案)

## 杜とまちの回遊を生み出す「ターゲット10+」

- 上野駅周辺の杜・まちの回遊性向上に向けて、特に注力して魅力化すべきパブリックスペースとネットワーク等を抽出
- 各ターゲットや文化・観光・商業施設等、後背地への回遊のモデルルートとしての『杜まち回廊』を位置づけ



### ■注力すべきパブリックスペース等12か所「ターゲット10+」



## 2022年度 まち部会 (第4回)

- 上野の特徴でもあるパブリックスペースを起点としたエリアマネジメント体制を構築することを確認
- ターゲット10+を中心としながらエリアマネジメントを行う「一元的マネジメント」について来年度検討を深化化する

### パブリックスペースが豊富な上野の強みを活かした新しいエリアマネジメントへ

(本部会で公共空間のあり方を検討する意義)

#### 上野におけるパブリックスペース〔公園、道路、広場等〕

- パブリックスペースのポテンシャルを活かすことでエリアの価値を向上し、都市の競争力を高めるまちづくりが世界で志向されている
- 上野公園をはじめとした公共空間は、他地区にはない重要な資源であり、戦略的な活用が必要。

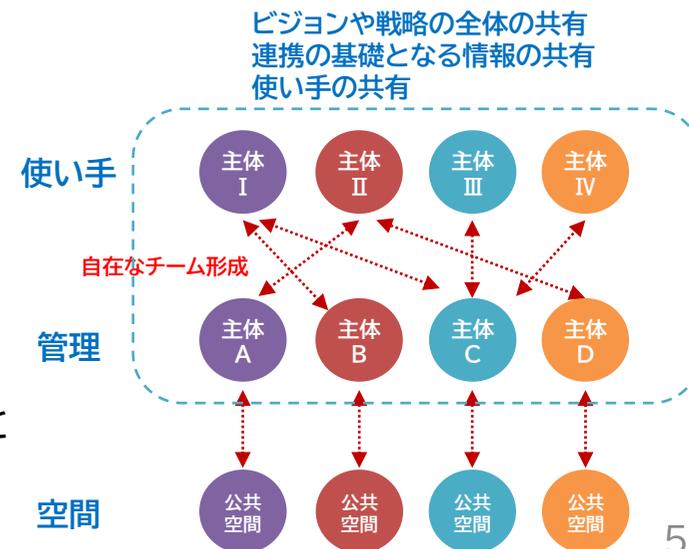
#### パブリックスペースを起点としたエリアマネジメントへ

- 民間不動産と同様に、公共空間を効果的に活用するには、所有・管理主体と空間の使い手を分離して考えることが不可欠で、有能な使い手を呼び込む仕組みが必要
- 資源が豊富な強みを活かすには、ターゲット10+個々の特徴を活かしつつ、全体を有効に活用する一元的なマネジメントの発想が有効

ターゲット10+

### 「一元的マネジメント」に向けた検討項目(案)

1. ターゲット10+それぞれで個性を明確にした空間のビジョンをもつ
2. 共通の基準やガイドラインをもつことで、12個の全てで居心地のよい水準をクリア
3. 全体として人流等のモニタリングや分析を行うことでマネジメントの改善にフィードバック
4. 場所の特徴にあわせたマネジメント体制を検討、確立し、全体で情報の共有と連携を図る
5. 空間の利活用に関する情報を一元化し、使い手がどこでも利用しやすくする



## 2022年度 基盤部会

- 杜とまちの回遊性向上を実現するための戦略の視点として、3つの視点(①歩行者優先のわかりやすい都市空間(ゾーニング)、②居心地が良く歩きたくなる都市機能の導入、③歩行者優先のわかりやすい都市空間(歩行者ネットワーク)を確認
- 戦略を具体化する検討の方向性として、交通戦略検討から行うことを確認

### 2022年9月29日 第2回基盤整備推進部会

#### 【検討テーマ】 上野地区ウォーカブルまちづくりの戦略検討

1. 歩行者優先のわかりやすい都市空間の創出  
(ゾーニング・歩行者ネットワーク)
2. 居心地が良く歩きたくなる都市機能の導入

#### <主なご意見>

- ① 上野版ウォーカブルの再定義
- ② 広域な視点の追加
- ③ 将来の新交通ネットワークの検討
- ④ 空間ごとのアクティビティ検討

### 2022年12月13日 第3回基盤整備推進部会

#### 【検討テーマ】 上野地区ウォーカブルまちづくり実現のための交通戦略検討

1. 上野地区における広域交通ネットワークの現況確認
2. 上野駅前交通環境調査報告[速報・概要版]

#### <主なご意見>

- ① 上野版ウォーカブルの目標共有
- ② 上野版ウォーカブル実現のための手法検討
- ③ 交通環境調査の分析検討

#### 現況を踏まえた将来構想検討

#### (人と交通のあり方検討)の方向性を確認

## 上野の位置づけを確認したうえで将来の方向性を検討する

### 都市計画の位置づけ

- 上野駅周辺では、広域的な交流・連携や災害に強いまちを支える道路ネットワークとして都市計画道路が整備・計画されるとともに、現状や将来の需要に基づく都市施設として都市計画駐車場が整備されている

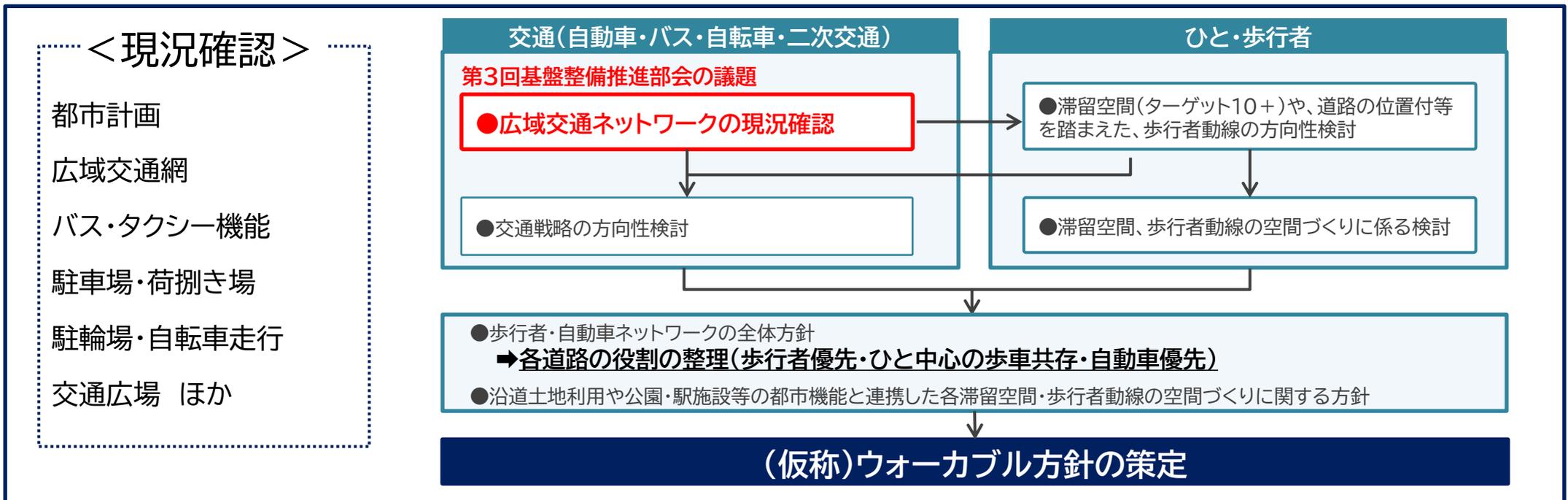
### 中核的な拠点〔都市づくりのランドデザイン(H29)〕

- 上野は「道路・交通ネットワークの高い結節性を持ち、広域的な観点から、高度な都市機能が集積する拠点」に位置づけられている

### 歩行者優先、ひと中心の歩車共存のエリアゾーニングの設定

- 杜、駅とまちを歩行者がスムーズに移動・回遊するうえで、道路や鉄道等による歩行者動線の分断が従来課題
- アフターコロナを見据え、屋外空間の使い方の重要性が見直される中で、都市機能(土地利用)と連携した公共空間のあり方が問われている
- 将来のエリアゾーニングを設定するうえで、広域的なネットワークの位置づけを含む構想が必要

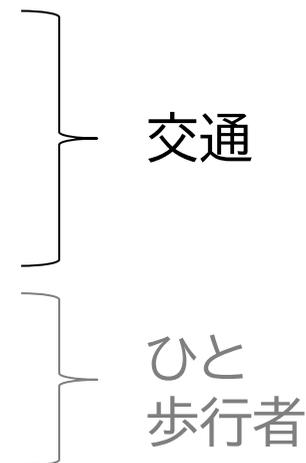
## 現況確認と基盤整備推進部会の進め方



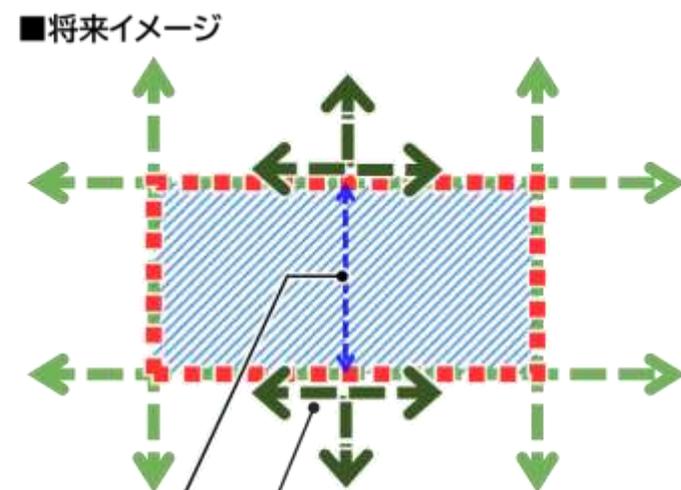
## 今後の進め方

### <整理にあたっての視点>

- ① 新たな視点の広域交通ネットワークのあり方
- ② 駐車場・荷捌き施設の出入口とアクセスルートの確保
- ③ 公共交通や自転車ネットワーク等の二次交通のあり方
- ④ 沿道施設の機能との連携・一体化
- ⑤ ひと・歩行者のための空間(ターゲット10+)とそのつなぎ方

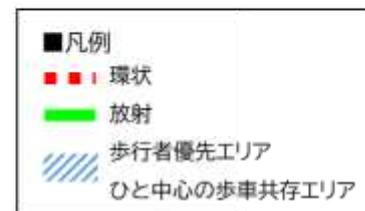


将来像を検討しながら各道路の路線ごとの性格分け  
(自動車優先・ひと優先の歩車共存・歩行者優先)



歩車共存・歩行者優先  
エリアの路線の性格の見直し

通過交通を環状路線に流す



# 第3回上野地区まちづくりビジョン推進会議の振り返りについて

## 第3回上野地区まちづくりビジョン推進会議(令和5年1月26日開催)の主なご意見

(まちづくり推進部会における検討状況について)

- 上野を利用する「ターゲット側」の視点に立ち、その人たちにどのような目的を持って来てほしいかを念頭におきながら議論を進めるべき。
- アートクロスは近代、上野広小路は江戸東京、のように場所ごとに時代や意味合いの差があり、ターゲット10+の各場所の意味を改めて持ちながら上野のイメージを発信しストーリーをつくれるかが重要。
- 「ウォークブル」自体が目的化しないように、ターゲット10+が消費者(利用者、来街者)に何を提供できるかを考える必要がある。

(基盤整備推進部会における検討状況について)

- 東京の各ターミナル駅周辺は大きく変貌しており、大きい視点で見ると上野駅周辺もその一環と捉えられる。歴史性を考えるとオールクリアランスとはならないが、パブリックスペース等のあり方の変化だけではまちは変わらない。その意味では駅東側の開発が肝要。
- まち全体で必要な機能と街区単位で必要な機能の両方を説明した方が、区民から理解を得られやすいように思う。

(今後の進め方について)

- 中央通りの社会実験について、実施に際して留意すべき事項は、①通過交通の迂回による他の道路への影響、②物流への影響、③交通結節点としての駅前広場の機能の維持、の3点。

(その他)

- 杜とまちだけでなく、他のエリアとどうつながるか、新たな見方をどのようにつくるか、を考えるともう一皮剥けるように思う。上野の価値を高めて他の地域ともつながることで、その先には東京の価値向上に展開することが期待される。